



Cisco IP 電話キー拡張モジュール

- [Cisco IP 電話 キー拡張モジュール セットアップの概要 \(2 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールの電源情報 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco IP 電話 へのキー拡張モジュールの接続 \(5 ページ\)](#)
- [Cisco IP 電話への 2 つまたは 3 つのキー拡張モジュールの接続 \(9 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールの自動検出 \(12 ページ\)](#)
- [電話機の Web インターフェイスからのキー拡張モジュールの設定 \(13 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュール セットアップへのアクセス \(13 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールタイプを割り当てる \(14 ページ\)](#)
- [電話メニューを使用してキー拡張モジュールタイプを割り当てる \(15 ページ\)](#)
- [単一 LCD 画面のキー拡張モジュールのリセット \(15 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールでの短縮ダイヤルの設定 \(16 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュール回線キーへのコールパークの追加 \(17 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールの LCD の明るさを設定 \(17 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールでの話中ランプフィールドの設定 \(18 ページ\)](#)
- [ユーザがキー拡張モジュールのラインキーで機能を構成できるようにする \(19 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールのラインキーにメニューのショートカットを追加する \(20 ページ\)](#)
- [拡張機能をキー拡張モジュールのラインキーに追加する \(21 ページ\)](#)
- [\[キー拡張モジュール\] ボタンのボイスメール PLK の設定 \(22 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールのトラブルシューティング \(23 ページ\)](#)
- [キー拡張モジュールは通常の起動プロセスを経由しません \(23 ページ\)](#)

Cisco IP 電話 キー拡張モジュール セットアップの概要

図 1: 単一 LCD 画面のキー拡張モジュール



図 2: デュアル画面での Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュール



図 3: デュアル画面での Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュール



Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュールは、追加のプログラム可能なボタンを電話機に追加します。プログラム可能なボタンは、電話の短縮ダイヤルボタンまたは電話機能ボタンとして設定できます。

使用可能な拡張モジュールが 3 つあります。

- Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュール: シングル LCD 画面モジュール、18 回線キー、2 ページ、2 列表示のみ。
- Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュール: 音声電話用のデュアル LCD 画面モジュール、14 回線キー、2 ページ、1 列表示のみ。
- Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュール: ビデオ電話用のデュアル LCD 画面モジュール、14 回線キー、2 ページ、1 列表示のみの設定。



(注) Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュールおよび Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュールでは、ファームウェアリリース 11.2 (3) 以降が必要です。

1 台の電話機に複数の拡張モジュールを使用できます。ただし、各モジュールは同じタイプである必要があります。Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュールと Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュール、または Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュールとを混在させることはできません。つまり、音声拡張モジュールとビデオ拡張モジュールを混在させることはできません。また、音声電話にビデオ拡張モジュールを使用したり、ビデオ電話に音声拡張モジュールを使用することもできません。

次の表では、電話機および各モデルがサポートするキー拡張モジュールの数を示します。

表 1: Cisco IP 電話およびサポートされている Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュール

Cisco IP 電話 モデル	サポートされるキー拡張モジュールとボタンの数
Cisco IP 電話 8851	2; 単一 LCD スクリーン、18 回線キー、2 ページ、72 ボタン
Cisco IP 電話 8861	3; 単一 LCD スクリーン、18 回線キー、2 ページ、108 ボタン
Cisco IP 電話 8865	3; 単一 LCD スクリーン、18 回線キー、2 ページ、108 ボタン

表 2: Cisco IP 電話およびサポートされている Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュールおよび Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュール

Cisco IP 電話 モデル	サポートされているキー拡張モジュールとボタンの数
Cisco IP 電話 8851	2; デュアル LCD スクリーン、14 回線キー、2 ページ、56 ボタン
Cisco IP 電話 8861	3; デュアル LCD スクリーン、14 回線キー、2 ページ、84 ボタン
Cisco IP 電話 8865	3; デュアル LCD スクリーン、14 ラインキー、2 ページ、84 ボタン

キー拡張モジュールの電源情報

電話にキー拡張モジュールを使用している場合、キー拡張モジュールに必要な電力は Power over Ethernet (PoE) で十分に対応できます。ただし、拡張モジュールを充電するには、電話機に IP アドレスが必要です。

キー拡張モジュールを取り付けている場合にスマートフォンまたはタブレットを充電するには、パワーキューブが必要です。

キー拡張モジュールは、モジュールごとに DC (48 V)、5 W を使用します。スマートフォンやタブレットを充電する場合は、次の点に注意してください。

- 側面の USB : 最大 500 mA/2.5 W の充電。
- 背面の USB : 高速充電。最大 2.1A/10.5W の充電。

表 3: に対する電源の互換性 Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュール

構成	802.3af Power over Ethernet (PoE)	802.3at PoE	Cisco IP 電話 Power Cube 4
8851 にキー拡張モジュールを 1 台接続	はい	はい	はい
8851 にキー拡張モジュールを 2 台接続	いいえ	いいえ 以下の 3 番目の注を参照してください。	はい
8861 にキー拡張モジュールを 1 台接続	いいえ	はい	はい
8861 にキー拡張モジュールを 2 台接続	いいえ	はい 以下の 1 番目の注を参照してください。	はい
8861 にキー拡張モジュールを 3 台接続	いいえ	はい 以下の 1 番目の注を参照してください。	はい



- (注)
- 背面 USB の急速充電機能は、802.3 at PoE を使用中の Cisco IP 電話 8861 に複数のキー拡張モジュールが接続された状態では機能しません。
 - 背面 USB の急速充電機能は、Cisco Universal PoE (UPoE) を使用する場合を除き、Cisco IP 電話 8861 に複数のキー拡張モジュールが接続された状態では機能しません。
 - Cisco IP 電話 8851 にキー拡張モジュールを 2 台接続している場合、802.3 at PoE ではハードウェアが v08 以降でないと機能しません。電話のバージョン情報は電話の背面下部にある TAN および PID のラベルの一部で確認できます。また、個々の電話機の梱包にもバージョン情報が記載されています。

表 4: Cisco IP 電話 8851/8861 キー拡張モジュールおよび Cisco IP 電話 8865 キー拡張モジュールに対する電源の互換性

構成	802.3af Power over Ethernet (PoE)	802.3at PoE	Cisco IP 電話 Power Cube 4
8851 にキー拡張モジュールを 1 台接続	はい	はい	はい
8851 にキー拡張モジュールを 2 台接続	いいえ	はい 以下の 3 番目の注を参照してください。	はい
8861 および 8865 にキー拡張モジュールを 1 台接続	いいえ	はい	はい
8861 および 8865 にキー拡張モジュールを 2 台接続	いいえ	はい 以下の 1 番目の注を参照してください。	はい
8861 および 8865 にキー拡張モジュールを 3 台接続	いいえ	はい 以下の 1 番目の注を参照してください。	はい



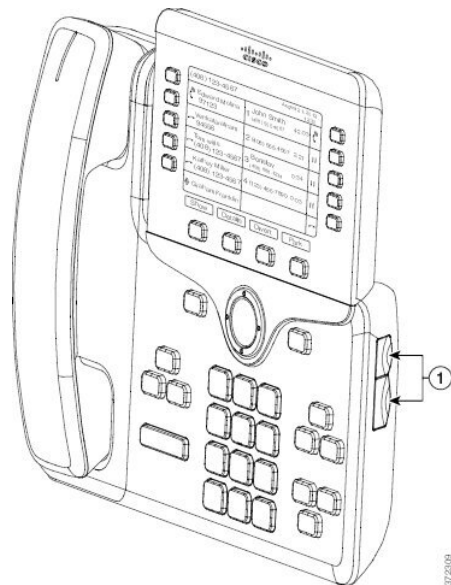
- (注)
- 背面 USB の急速充電機能は、802.3 at PoE を使用中の Cisco IP 電話 8861 および 8865 に複数のキー拡張モジュールが接続された状態では機能しません。
 - 背面 USB の急速充電機能は、Cisco Universal PoE (UPoE) を使用する場合を除き、Cisco IP 電話 8861 および 8865 に複数のキー拡張モジュールが接続された状態では機能しません。
 - Cisco IP 電話 8851 にキー拡張モジュールを 2 台接続している場合、802.3 at PoE ではハードウェアが v08 以降でないと機能しません。電話のバージョン情報は電話の背面下部にある TAN および PID のラベルの一部で確認できます。また、個々の電話機の梱包にもバージョン情報が記載されています。

Cisco IP 電話 へのキー拡張モジュールの接続

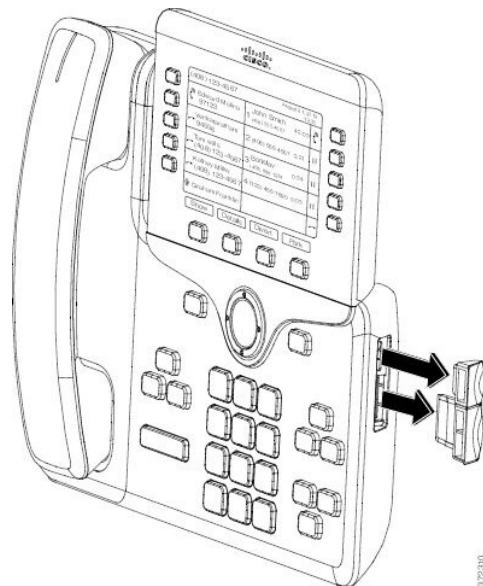
複数のキー拡張モジュールを設置する場合は、ステップ 7～9 を繰り返して、2 台目以降の拡張モジュールをすべて接続します。

手順

- ステップ 1** 電話機からイーサネット ケーブルを抜き取ります。
- ステップ 2** 装着されている場合、電話機からフットスタンドを取り外します。
- ステップ 3** 電話機側面のアクセサリ コネクタ カバーを探します。
- 次の図は、その位置を示しています。



- ステップ 4** 図に示されているように、2つのアクセサリ コネクタ カバーを取り外します。



注意 スロットはスパイン コネクタ専用設計されています。他の機器を無理に挿入すると、電話機が損傷する場合があります。

ステップ5 電話機の正面を上に向けます。

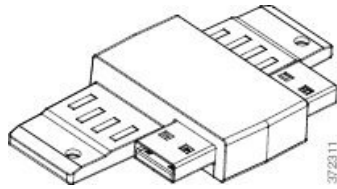
ステップ6 キー拡張モジュール スパイン コネクタの一端を Cisco IP 電話 のアクセサリ コネクタに差し込みます。

a) アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。

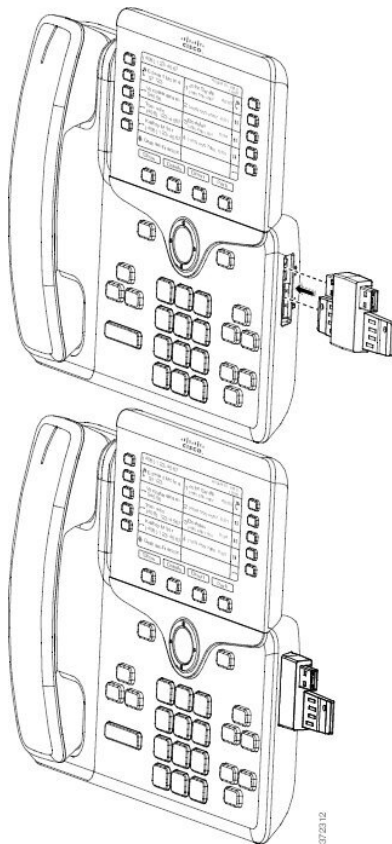
(注) 次の図に示す向きにコネクタを取り付けます。

b) 電話機へスパイン コネクタをしっかりと押し込みます。

以下の図にスパイン コネクタを示します。



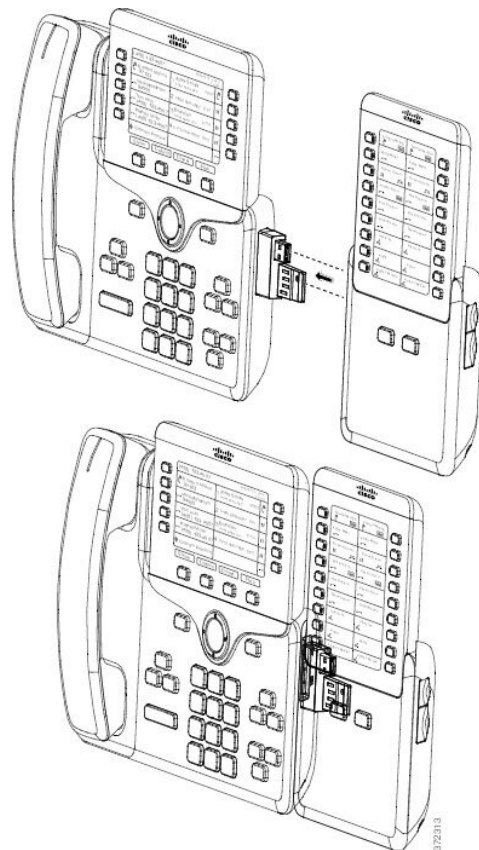
スパイン コネクタの取り付け図を示します。



ステップ7 この図に示されているように、スパインコネクタの反対側を、キー拡張モジュールに接続します。

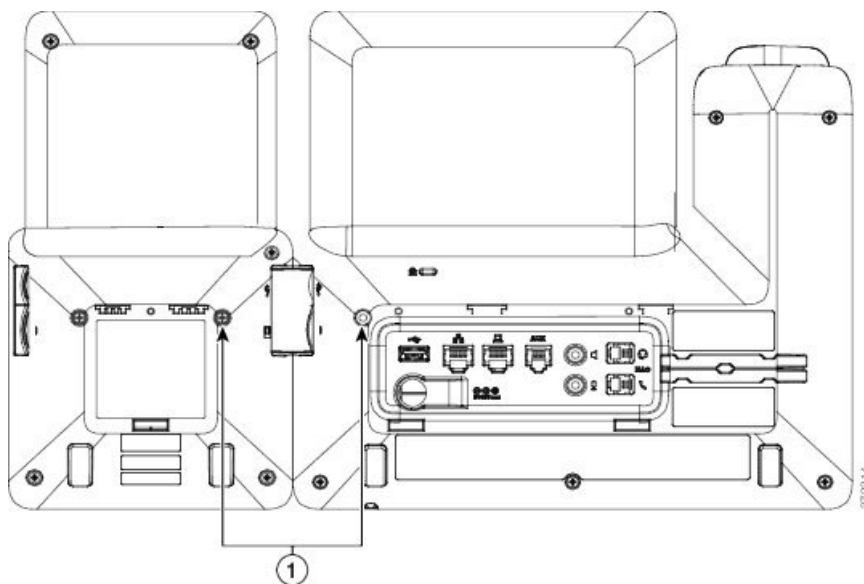
a) キー拡張モジュール アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。

b) キー拡張モジュールをスパイン コネクタにしっかり押し込みます。



- ステップ 8** (任意) 2 台目のキー拡張モジュールのスパイン コネクタを使用して、2 台目のキー拡張モジュールを 1 台目のキー拡張モジュールに接続します。
- ステップ 9** (任意) 第3のキー拡張モジュールスパインコネクタを使用して、3 台目のキー拡張モジュールを 2 台目のキー拡張モジュールに接続します。
- ステップ 10** ドライバを使用して電話機にネジを固定します。

このステップにより、電話機とキー拡張モジュールが常に接続された状態が維持されます。以下の図に、電話機と 1 台のキー拡張モジュールのネジ穴の位置を示します。



(注) ネジが電話に完全に納まるように締めてください。

ネジを紛失した場合、電話機は標準の M3 0.5 x 5.0 mm ネジを使用します。

ステップ 11 (任意) フットスタンドを電話機とキー拡張モジュールに装着し、作業場所に平らに置けるよう両方のフットスタンドを調節します。

ステップ 12 電話機にイーサネットケーブルを挿入します。

Cisco IP 電話への2つまたは3つのキー拡張モジュールの接続

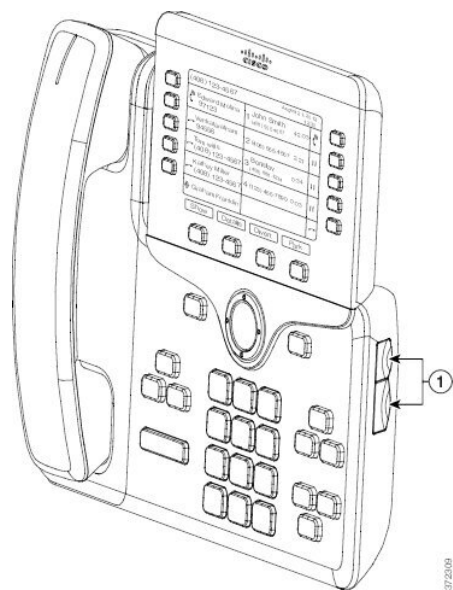
手順

ステップ 1 電話機からイーサネットケーブルを抜きます。

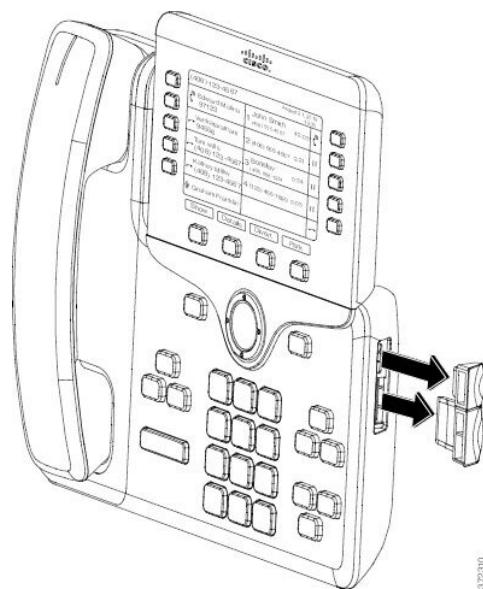
ステップ 2 装着されている場合、電話機からフットスタンドを取り外します。

ステップ 3 電話機側面のアクセサリコネクタカバーを探します。

次の図は、その位置を示しています。



ステップ4 図に示されているように、2つのアクセサリ コネクタ カバーを取り外します。



注意 スロットはスパイン コネクタ専用設計されています。他の機器を無理に挿入すると、電話機が損傷する場合があります。

ステップ5 電話機の正面を上に向けます。

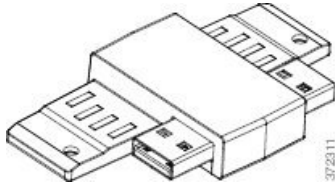
ステップ6 キー拡張モジュールスパイン コネクタの一端を Cisco IP 電話のアクセサリ コネクタに差し込みます。

a) アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。

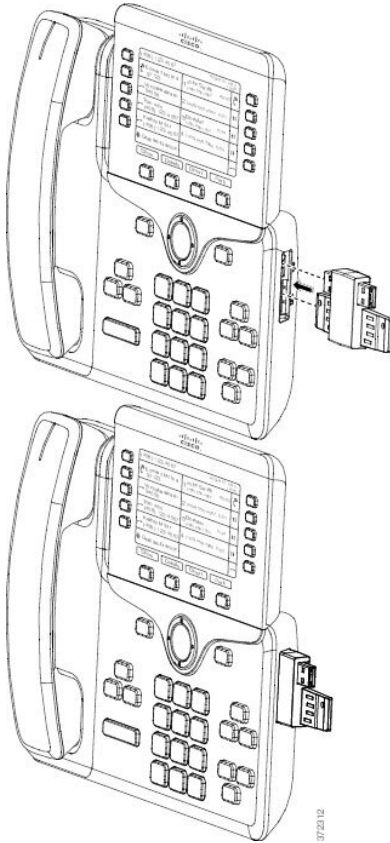
(注) 次の図に示す向きにコネクタを取り付けます。

b) 電話機へスパイン コネクタをしっかり押し込みます。

以下の図にスパイン コネクタを示します。



スパイン コネクタの取り付け図を示します。



ステップ 7 この図に示されているように、スパインコネクタの反対側を、キー拡張モジュールに接続します。

- a) キー拡張モジュール アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。
- b) キー拡張モジュールをスパイン コネクタにしっかり押し込みます。

1 台目のキー拡張モジュールが Cisco IP 電話 に接続されました。

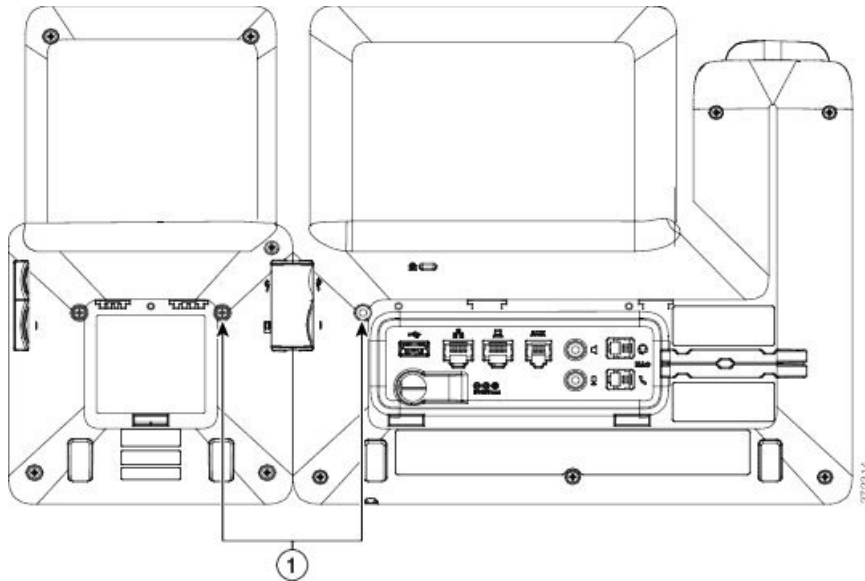
ステップ 8 2 台目のキー拡張モジュールのスパイン コネクタを使用して、2 台目のキー拡張モジュールを 1 台目のキー拡張モジュールに接続します。

ステップ 9 3 台目のキー拡張モジュールのスパイン コネクタを使用して、3 台目のキー拡張モジュールを 2 台目 (中間) のキー拡張モジュールに接続します。次の図は、3 つのキー拡張モジュールが接続された Cisco IP 電話 を示しています。



ステップ 10 ドライバを使用して電話機および各キー拡張モジュールにネジを固定します。

このステップにより、電話機とキー拡張モジュールが常に接続された状態が維持されます。次の図は、ネジ穴の位置を示しています。



(注) ネジが電話に完全に納まるように締めてください。

ステップ 11 (任意) 電話機およびキー拡張モジュールにフットスタンドを装着し、作業面に水平に立つようにすべてのフットスタンドを調整します。

ステップ 12 電話機にイーサネット ケーブルを挿入します。

キー拡張モジュールの自動検出

サポートするキー拡張モジュールの最大数を自動検出するように、新しい電話機を設定できます。これらの電話機では、[ユニット数 (Number of Units)] フィールドに電話機がデフォルト値としてサポートするキー拡張モジュールの最大数が表示されます。ユーザがこれらの電話機にキー拡張モジュールを追加すると、モジュールが点灯し、自動的に有効になります。このフィールドのデフォルト値は、Cisco IP 電話 8851 では 2、Cisco IP 電話 8861 では 3 です。[管理者ログイン (Admin Login)] > [詳細 (Advanced)] > [音声 (Voice)] > [アテンダントコン

ソール (Att Console)]に移動して、[ユニット数 (Number of Units)]フィールドの値を確認します。

ユーザが古いリリースの電話機を所有していて、現在のリリースにアップグレードしている場合は、ユーザがキー拡張モジュールを電話機に追加するとモジュールが点灯して自動的に有効になるよう、電話機の設定を変更できます。

電話機の Web インターフェイスからのキー拡張モジュールの設定

電話機の web インターフェイスから、サポートされているキー拡張モジュールの数を追加できます。

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Att コンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 [ユニット数 (Number of Units)] リストから、サポートされるキー拡張モジュールの数を選択します。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg.xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Number_of_Units ua="na">2</Number_of_Units>
```

デフォルト : 0

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

キー拡張モジュール セットアップへのアクセス


電話機に 1 つ以上のキー拡張モジュールを取り付けて [設定ユーティリティ (Configuration Utility)] ページでそれらのモジュールを設定すると、電話機が自動的にキー拡張モジュールを認識します。

複数のキー拡張モジュールを取り付けた場合、次のように、電話機に接続する順にモジュールに番号が割り当てられます。

- キー拡張モジュール 1 は、電話機に最も近い拡張モジュールです。
- キー拡張モジュール 2 は、中央の拡張モジュールです。
- キー拡張モジュール 3 は、一番右側の拡張モジュールです。

電話機がキー拡張モジュールを自動的に認識したら、[詳細の表示 (Show Details)]ソフトキーを選択して、選択したキー拡張モジュールに関する追加情報を表示できます。

手順

ステップ 1 電話機で、[アプリケーション (Applications)]  を押します。

ステップ 2 [ステータス (Status)]>[アクセサリ (Accessories)]を押します。

アクセサリのリストに、適切に取り付けられて設定されているキー拡張モジュールがすべて表示されます。

キー拡張モジュールタイプを割り当てる

電話機がサポートしているキー拡張モジュールのタイプを割り当てることができます。

- BEKEM
- CP-8800-Audio
- CP-8800-Video

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。

始める前に

- 電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)]>[Attコンソール (Att Console)]を選択します。

ステップ 2 KEMのタイプを bekem、Cp-8800-Audio、Cp-8800-ビデオから設定する

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg.xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<KEM_Type ua="na">CP-8800-Video</KEM_Type>
```

オプション: BEKEM、CP-8800-音声、cp-8800-ビデオ


デフォルト: CP-8800-ビデオ

ステップ 3 すべての変更を送信を押します。

電話メニューを使用してキー拡張モジュールタイプを割り当てる

電話機がサポートしているキー拡張モジュールのタイプを割り当てることができます。

手順

ステップ 1 [アプリケーション (Applications)]  を押します。

ステップ 2 [ユーザ設定 (User preferences)] > [アテンダント コンソール設定 (Attendant console preferences)] > [KEM タイプ (KEM タイプ)] を選択します。

ステップ 3 [キー拡張モジュール]タイプを選択します。

ステップ 4 [保存] を押します。

単一 LCD 画面のキー拡張モジュールのリセット

ご使用の Cisco IP 電話 8800 キー拡張モジュールに技術的な問題が発生した場合、モジュールを工場出荷時のデフォルト設定にリセットできます。

手順

ステップ 1 電源を切断して数秒待った後、キー拡張モジュールを再起動して再接続します。

ステップ 2 キー拡張モジュールの電源が投入されたら、[1ページ (Page 1)] を長押しします。LCD 画面が白に変わってから少なくとも 1 秒間、[ページ 1 (Page 1)] を押し続けます。

ステップ 3 [ページ 1 (Page 1)] を離すと、LED が赤くなります。

ステップ 4 すぐに [ページ 2 (Page 2)] を押し、少なくとも 1 秒間は [ページ 2 (Page 2)] を押し続けます。

ステップ 5 [ページ 2 (Page 2)] を離すと、LED がオレンジになります。

ステップ 6 回線 5、14、1、18、10、9 の順に押します。

LCD 画面が青に変わります。回転するアイコンが画面中央に表示されます。

キー拡張モジュールがリセットされます。

キー拡張モジュールでの短縮ダイヤルの設定

短縮ダイヤルをキー拡張モジュール回線で設定できます。ユーザは回線キーを押して頻繁にダイヤルする番号を呼び出すことができます。

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。

始める前に

[電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 短縮ダイヤルを有効にするキー拡張モジュールの回線キーを選択します。

ステップ 3 次の形式で文字列を入力します。

```
fnc=sd;ext=9999@$PROXY;vid=n;nme=xxxx
```

定義：

- fnc = sd は機能 = 短縮ダイヤルを意味します。
- ext = 9999 は、回線キーで呼び出す電話機です。9999 を番号で置き換えます。
- vid = n は電話機の回線インデックスです。
- nme = XXXX は短縮ダイヤル回線キーについて電話機で表示される名前です。XXXX を名前で置き換えます。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg.xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Unit_n_Key_m>fnc=sd;ext=9999@$PROXY;vid=n;nme=xxxx
```

ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

キー拡張モジュール回線キーへのコールパークの追加

キー拡張モジュールの回線キーにコールパークを追加して、ユーザがコールをキー拡張モジュールが接続されている電話機に一時的に保存したり別の電話機にコールを保存することを可能にすることができます。ユーザは、回線キーからコールのパークを解除することもできます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 コールパークを有効にするキー拡張モジュールの回線キーを選択します。

ステップ 3 次の形式で文字列を入力します。

プライベート回線の場合は、 を入力します。

```
fnc=park;sub=$USER@$PROXY;nme=CallPark-Slot1
```

共有電話の場合、 を入力します。

```
fnc=prk;sub=$USER@$PROXY;nme=Call-Park1;orbit=<DN of primary line>
```

ここで、

- `fnc = prk` は関数がコールパークであることを意味します。
- `sub = 999999` はコールがパークする電話機です。999999 を番号で置き換えます。
- `nme = XXXX` は、コールパーク回線キーについて、電話機に表示される名前です。XXXX を名前で置き換えます。

このパラメータは、設定ファイル(cfg.xml)の回線固有のパラメータでも設定できます。文字列を次の形式で入力します。

```
<Unit_1_Key_1_ua="na">fnc=prk;sub=$USER@$PROXY;nme=CallPark-Slot1</Unit_1_Key_1_>
```

ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

キー拡張モジュールの LCD の明るさを設定

キー拡張モジュールの LDC ディスプレイの明るさをアテンダントコンソールタブから設定することができます。

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 [アテンダントコンソールのLCDコントラスト (Attendant Console LCD Contrast)] を 1 ~ 15 の間の値に設定します。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg.xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Attendant_Console_LCD_Brightness ua="na">12</Attendant_Console_LCD_Brightness>
```

数値が大きいくほど、キー拡張モジュール画面が明るくなります。デフォルト値は 12 です。値を入力しない場合、LCD の明るさのレベルは 1 (最も暗い値) と等しくなります。

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

キー拡張モジュールでの話中ランプフィールドの設定

キー拡張モジュール回線のビジジー ランプ フィールドを設定して、同僚が電話を受けられるかをユーザがモニタすることができます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 キー拡張モジュール回線のキーを選択します。

ステップ 3 次の形式で文字列を入力します。

```
fnc=blf;sub=xxxx@$PROXY;usr=8888@$PROXY.
```

場所 :

- fnc = blf はビジジー ランプ フィールド (busy lamp field) を意味します。

- **sub** = SUBSCRIBE メッセージの送付先の URI です。この名前は List URI: sip: パラメータで定義されている名前と同じである必要があります。xxxx は List URI: sip: パラメータで定義されている名前です。xxxx を定義されている正確な名前に置き換えます。\$PROXY はサーバです。\$PROXY をサーバアドレスまたは名前で置き換えます。
- **usr** = BLF によってモニタされている BroadSoft ユーザです。8888 はモニタされている電話機です。8888 をモニタする電話機の正確な番号に置き換えます。\$PROXY はサーバです。\$PROXY をサーバアドレスまたは名前で置き換えます。

ステップ 4 (任意) ビジーランプフィールドを短縮ダイヤルとコールピックアップの両方で動作するようにするには、次の形式で文字列を入力します。

```
fnc=blf+sd+cp;sub=xxxx@$PROXY;usr=yyyy@$PROXY.
```

場所 :

sd= 短縮ダイヤル

cp= コールピックアップ

ビジーランプフィールドをコールピックアップまたは短縮ダイヤルのどちらかだけ有効にすることもできます。文字列を次の形式で入力します。

```
fnc=blf+cp;sub=xxxx@$PROXY;usr=yyyy@$PROXY
```

```
fnc=blf+sd;sub=xxxx@$PROXY;usr=yyyy@$PROXY
```

次の形式で文字列を入力して、設定ファイル (cfg.xml) のパラメータを設定することもできます。

```
<Unit_1_Key_2_ ua="na">fnc=blf;ext=3252@$PROXY;nme=BLF_3252</Unit_1_Key_2_>
```

ステップ 5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)]をクリックします。

ユーザがキー拡張モジュールのラインキーで機能を構成できるようにする

キー拡張モジュールのラインキーで、ユーザが機能を設定できるようにすることができます。ユーザは、設定されている機能を無効なラインキーに追加できます。サポートされている機能については、[ラインキーの設定可能な機能](#)を参照してください。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 [全般 (General)] セクションで、[ラインキーの設定可能な機能](#)の定義に従って、カスタマイズ可能な **PLK オプション** フィールドを目的の機能のコードで設定します。

例: このフィールドは、`blf;shortcut;dnd;` で設定されています。ユーザは、キー拡張モジュールのラインキーを押した状態で、機能一覧を呼び出すことができます。機能一覧は次のようになります。

1 なし

2 BLF プレゼンス

4 メニューショートカット

3 サイレント

ユーザは機能またはメニューショートカットを選択して、ラインキーに追加することができます。

次の形式の文字列を使って、設定ファイル (cfg.xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Customizable_PLK_Options ua="na">blf;shortcut;dnd;</Customizable_PLK_Options>
```

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

キー拡張モジュールのラインキーにメニューのショートカットを追加する

接続されているキー拡張モジュールのラインキーにメニューショートカットを追加できます。その後、ユーザは設定されたラインキーを押してこのメニューにアクセスできます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 ユニット (*n*) セクションに移動します。ここでの *n* はキー拡張モジュールのユニット番号です。

ステップ 3 ユニット *n* キー *m* フィールドを設定します。ここでの *n* はキー拡張モジュールのユニット番号、*m* はキー番号です。

```
fnc=shortcut;url=userpref;nme=User preferences
```

説明：

- `fnc=shortcut`は、`function=phone` メニューのショートカットです。
- `url = userpref` は、このラインキーを使用して開くメニューです。この例の**ユーザ設定**メニューです。ショートカットマップの詳細については、[PLK と PSKのメニューショートカットのマッピング](#)を参照してください。
- `Nme=XXXX` は、キー拡張モジュールに表示されるメニューショートカット名です。表示名を指定しない場合、ラインキーにはターゲットメニュー項目が表示されます。この例では、ラインキーが**ユーザ設定**を表示します。

次の形式の文字列を使って、設定ファイル(cfg.xml)でパラメータを設定することもできます。

```
<Unit_n_Key_m_ua="na">fnc=shortcut;url=userpref;nme=User preferences</Unit_n_Key_m_>
```

ここでの、*n* はキー拡張モジュールのユニット番号、*m* はキー番号です。

ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)]をクリックします。

拡張機能をキー拡張モジュールのラインキーに追加する

接続されているキー拡張モジュールのラインキーに機能を追加できます。その後、ユーザはラインキーを押してこの機能にアクセスできます。サポートされている機能については、[ラインキーの設定可能な機能](#)を参照してください。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)]>[Attコンソール (Att Console)]を選択します。

ステップ 2 ユニット (*n*)セクションに移動します。ここでの*n*はキー拡張モジュールのユニット番号です。

ステップ 3 ユニット *n* キー *m* フィールドを設定します。ここでの *n* はキー拡張モジュールのユニット番号、*m* はキー番号です。

```
fnc=dnd
```

ユーザは、ラインキーを使用して応答不可モードをオンまたはオフにすることができます。機能コードの詳細については、[ラインキーの設定可能な機能](#)を参照してください。

次の形式の文字列を使って、設定ファイル(cfg.xml)でパラメータを設定することもできます。

```
<Unit_n_Key_m_ua="na">fnc=dnd</Unit_n_Key_m_>
```

ここでの、 n はキー拡張モジュールのユニット番号、 m はキー番号です。

ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

[キー拡張モジュール] ボタンのボイスメール PLK の設定

指定したユーザまたはグループのボイスメールアカウントをユーザが監視するように、ユーザのキー拡張モジュールのボイスメール プログラム ラインキー (PLK) を設定することができます。

ボイスメール PLK は、内線番号のボイスメールと別のユーザまたはグループのボイスメールの両方を監視できます。別のユーザまたはグループのボイスメールをモニタリングするには、SIP プロキシがサポートされている必要があります。

たとえば、ユーザがカスタマーサービスグループに属するとします。この機能により、ユーザは、ボイスメールとグループのボイスメールを両方とも監視できます。

同じボタンに対して短縮ダイヤルを設定した場合、ユーザはボタンを押して、割り当てられた内線への短縮ダイヤルを作成できます。

始める前に

電話機に 1 つまたは複数の拡張モジュールが取り付けられています。

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [Attコンソール (Att Console)] を選択します。

ステップ 2 ボイスメール PLK を設定する拡張モジュールボタンを選択します。

ステップ 3 次の形式で文字列を入力します。

- MWI のみの場合:

```
fnc=mwi;sub=group_vm@domain;vid=1;nme=Group;
```

- MWI + 短縮ダイヤルの場合:

```
fnc=mwi+sd;ext=8000@domain;sub=group_vm@domain;vid=1;nme=Group;
```

- MWI + 短縮ダイヤル + DTMF の場合:

```
fnc=mwi+sd;ext=8000 ,4085283300#,123456#@domain;sub=group_vm@domain;vid=1;nme=Group;
```

文字列シンタックスの詳細については、 [ボイスメール PLK の文字列シンタックス](#) を参照してください。

このパラメータは、電話機の設定ファイル(cfg.xml)でも設定できます。パラメータは、回線固有です。次の形式で文字列を入力します。

```
<Unit_1_Key_1_ua="na">fnc=mwi+sd;ext=8000,4085283300#,123456#@domain;  
sub=group_vm@domain;vid=1;nme=Group;</Unit_1_Key_1_>
```

ステップ 4 全般 (General) セクションで、カスタマイズ可能な PLK オプションで **mwi** または **mwi;sd** を追加します。

設定ファイル(cfg.xml)のパラメータ:

```
<Customizable_PLK_Options ua="na">mwi;sd</Customizable_PLK_Options>
```

設定後、ユーザは対応する拡張モジュールボタンの機能を設定することができます。

ステップ 5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)]をクリックします。

キー拡張モジュールのトラブルシューティング

手順

ステップ 1 CLI を開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力してデバッグ モードを開始します。

```
debugsh
```

ステップ 3 「?」を入力すると、使用可能なすべてのコマンドとオプションが表示されます。

ステップ 4 適切なコマンドとオプションを使用して、必要な情報を検索します。

ステップ 5 デバッグ モードを終了するには、Ctrlキーを押した状態で C キーを押します。

キー拡張モジュールは通常の起動プロセスを経由しません

問題

ネットワークポートに接続されている電話機にキー拡張モジュールを接続しても、キー拡張モジュールは起動しません。

原因

- キー拡張モジュールのタイプと接続されているキー拡張モジュールが一致しません。
- 電話機には複数のタイプの拡張モジュールが接続されています。

■ キー拡張モジュールは通常の起動プロセスを経由しません

- Power over Ethernet (PoE) が必要な電源を満たしていません。
- キー拡張モジュールの接続数が最大「ユニット数」を超えています。

ソリューション

- 同じタイプの拡張モジュールを使用するように電話機を交換してください。
- 電話機が接続している PoE を確認してください。
- ユニット番号が「ユニット数」よりも大きいかどうかを確認してください。